

Ⅲ 地域歯科保健課題対応事業				
保健所	一宮	瀬戸	瀬戸	春日井
事業名	障がい児と歯科医療をつなぐ体制づくりの推進	地域包括ケアに向けた在宅口腔ケア推進のための基盤づくり	乳幼児のう蝕予防のための取り組みの推進	働く世代の歯周病対策の推進
地域課題	○一宮市は口腔衛生センターを設置し、障がい者（児）医療を週1回実施、障がい児の診療や相談が可能な歯科診療所名簿を作成。  ○稲沢市は年6回障害者（児）歯科検診を実施、障がい児の歯科保健医療体制の構築に努めている。  ○保健所では平成25年度から障がい児と歯科医療をつなぐ目的で障がい児を持つ保護者と医療関係者を対象に研修会を実施。  ○乳幼児期からの歯科疾患予防は重要であり、今後も障がい児に関わる関係者の歯科疾患予防の知識・技術の情報提供を継続していく必要がある。	○高齢化率が年々高くなっており、特に瀬戸市の高齢化が進んでいる。  ○在宅療養支援歯科診療所は管内歯科診療所229件中18件(7.9%)で愛知県歯科口腔保健基本計画の平成34年の目標15%の半数となっている。  ○歯科診療所に勤務する歯科衛生士が少なく、訪問では在宅口腔ケアまで歯科専門職が取り組んでいない状況である。  ○管内6市町のうち行政に常勤歯科衛生士がいるのは、1市のみである。	○う蝕の状況は、県と比較し少ない状況にあるが、市町による差が大きい。  ○管内6市町のうち行政に常勤歯科衛生士がいるのは、1市のみであり、就園児の第一大臼歯の保護育成のための健康教育やフッ化物洗口など取り組みがあまり行われていない状況である。	○歯周病対策は子どもから高齢者まで幅広い取組が必要であるが、職域での取り組みは進んでいない。  ○歯間清掃用器具の使用や定期的な歯科検診等の口腔管理の実態も把握できていない。  ○各市で実施している40歳・50歳・60歳の節目歯周疾患検診の受診率は1割前後と低い状況であり、歯周炎を有する者の割合も改善がみられない。
事業の目的	障がいがあっても生涯を通じて歯科疾患を予防し健康な生活を送ることができる地域づくりを行う。	管内の在宅歯科の現状把握と関係機関への実態調査を実施し、その結果から歯科関係者が課題を検討し、地域の在宅口腔ケア推進のための基盤をつくる。	乳幼児期の第一大臼歯のう蝕予防のための健康教育とフッ化物利用が推進される。	企業関係者と歯周病対策に取り組めるような体制づくりや働く人々の実態調査に基づいた普及啓発の方策を検討することにより、健康で質の高い生活を営むことができるよう歯・口腔の健康を維持する。
目標	1 障がい児の支援者が、日常の口腔ケアの重要性を理解できる。 2 障がい児の支援者が、具体的な口腔ケアの技術を習得することができる。 3 障がい児の支援者が、かかりつけ歯科医を持つことへの支援ができる。	1 在宅歯科診療・口腔ケアについての実態調査を行いその結果から現状を把握する。 2 歯科関係機関で地域の課題や対応等について協議を行う。 3 地域包括ケアシステムの推進に向け、関係機関が在宅口腔ケアについての共通認識を持つ	1 現場で活用できる情報提供誌の作成 2 瀬戸市の保育園・幼稚園・小学校で第一大臼歯のう蝕予防のための取り組み（健康教育・フッ化物洗口）の普及	1 職域での歯周病予防の理解を深まることによる口腔ケアの推進 2 職域での歯科検診受診率の向上 3 かかりつけ歯科医を持ち定期健診をうける者の増加 4 歯周病対策に取り組む企業の増加
事業内容	1 研修会の開催 平成28年11月17日 「地域の障がい児歯科医療体制について」 一般社団法人 一宮市歯科医師会理事 牧宏行 「障がい児における低年齢からの歯磨きの必要性について」 豊田市こども発達センターのぞみ診療所 歯科衛生士 図師良枝 対象者 歯科医師会、保育士等、市職員等 計69名  2 障がい児口腔ケアのための情報及び歯科医療情報のまとめ作成配布 対象：一宮市、稲沢市、各市歯科医師会、母子通園施設、保育園等相談支援関係機関 140機関	1 在宅口腔ケア推進検討会議 2回 関係者が在宅歯科の体制整備及び推進のための課題の検討を行う。 平成28年6月20日（月）、10月17日（月）  2 実態調査 管内の在宅歯科の現状把握のため実態調査を行う。 対象 介護支援専門員・歯科衛生士  3 在宅口腔ケア推進研修会 年1回 平成29年2月23日(木) 予定	1 瀬戸市を対象とした事業 (1)聞き取りによる実態調査及びデータの分析 (2)検討会議の開催 平成28年12月1日（木）  2 管内全体を対象とした事業 (1) 関係者向け情報提供誌の作成 (2) 研修会の開催 平成29年3月1日(水) 予定	1 関係機関会議 3回 地域健康課題と事業計画について 実態調査(案)について 助言者：愛知学院大学歯学部 嶋崎教授 名古屋工業大学 横山准教授 出席者：企業4名、各歯科医師会代表者、市関係者 平成28年7月28日（木）、9月15日（木） 平成29年2月16日（木）  2 事業者及び従業員向けアンケート調査の実施 対象：協力が得られた事業所及び従業員  3 普及啓発 アンケート結果に基づき1事業所において 歯科講話等を実施 平成29年3月14日（火）予定

Ⅲ 地域歯科保健課題対応事業				
保健所	清須	津島	半田・知多	衣浦東部
事業名	地域包括ケアシステムにおける経口摂取支援を目的とした歯科医療と介護の連携推進について	海部地域みんなで取り組むお口の健康キャンペーン～若い世代の歯周病対策～	乳幼児期の歯・口の機能の発達を育む「食べ方」支援に向けた環境整備	障害児歯科口腔保健医療対策の充実～発達障害児に対する予防的支援の環境づくり～
地域課題	○医療と介護の連携推進に向けた医師会サポートセンター事業等により在宅医療の推進が図られる一方で、 <b>地域包括ケアシステムにおける歯科専門職種の経口摂取支援の立場からの関わりを充実させ、在宅歯科医療のさらなる推進を目指す必要がある。</b>	○当保健所管内は、歯周疾患検診結果から <b>50歳以降の平均現在歯数が県平均より低い</b> ため、 <b>40歳以前の若い世代へ歯周病予防の働きかけが必要</b> である。  ○若い世代への啓発内容は、歯周病やう蝕の予防方法など基礎知識の普及を図ることが必要があることが海部地域で実施したアンケート調査から確認されている。	○平成17年度乳幼児栄養調査では4歳未満の子どもの保護者2,722名を対象に行われ、10年前の同調査と比較して「よく噛まない」小児の割合は12.6%から20.3%に増加し、新たな追加項目「口から出す」は15.1%に上がることが明らかとなっている。  ○当管内でも <b>乳幼児期の子どもの食べ方の問題点・課題を把握する必要がある。</b>	○ <b>障害児の歯科医療</b> は困難性・特殊性を要求されるため、 <b>対応する歯科医療機関は限られており、歯科受診を阻害する背景となっている。</b>
事業の目的	<b>歯科専門職種が地域包括ケアシステムの体制づくりにおける在宅医療と介護の連携推進において、経口摂取支援の立場から多職種との関わりを積極的に行う。</b>	40歳で歯周病に罹患している住民を減らす	<b>乳幼児期の歯・口の成長変化に応じた適切な摂食機能の発達を育む支援</b> により、生涯を通じて美味しく安全に食べるための <b>口腔機能が獲得</b> できる。	<b>地域に暮らす全ての子どもたちが、いつでも安心して定期的な歯科健診と専門的な支援を受け、歯と口の健康づくりを通じた健康で質の高い生活を送ることができる。</b>
目標	1 平成30年度の地域包括ケアシステム構築に向け、歯科専門職が地域包括ケアシステムにおける在宅歯科医療のあり方についての検討に参加し自ら実践できる。 2 歯科医師、歯科衛生士が経口摂取支援に向け多職種（ケアマネジャー、介護職員、医師、訪問看護師、栄養士等）と連携できる。 3 歯科医師、歯科衛生士が、「経口摂取支援の必要性を理解し実践できる」多職種の増加に関与する。	1 20歳から40歳の世代や働く世代で特に意識のない人への働きかけを試み、取り組み方法を検討する。 2 40歳で年1回以上歯科健診を受ける住民を増やす。	1 母子保健事業に従事する関係職員及び保育園関係職員は、乳幼児期の歯・口の発達を学び、乳幼児とその保護者に適切な「食べ方」に関する支援の必要性を理解する。	1 母子保健関係者が、保健事業の中で、育てにくさを感じる保護者に対して、う蝕予防の視点から適切な助言や早期介入ができる。 2 障害児の保護者及び母子保健・障害児支援関係者が、あいち医療情報ネットを活用し、障害児の歯科診療対応について情報を得ることができる。 3 障害児支援に関わる全ての関係者が、予防的支援の必要性とそれぞれが担う役割を理解できる。
事業内容	1 事業検討ワーキング会議 1回 平成28年7月28日（木） 出席者：歯科医師会、医師会、歯科衛生士会、管内市町地域包括支援センター、ケアマネジャー、訪問看護ステーション等  2 介護事業所等を対象とした <b>在宅歯科医療連携実施状況調査</b> 管内市町の介護事業所 約80施設 管内歯科医療機関 74施設  3 <b>経口摂取支援歯科医療従事者研修会</b> 平成28年11月10日（木） 対象：歯科医師、歯科衛生士等  4 <b>経口摂取支援関係者連携会議</b> 1回 平成29年2月2日（木）予定 出席者：歯科医師会、医師会、歯科衛生士会、管内市町地域包括支援センター、ケアマネジャー、訪問看護ステーション等	1 <b>実務者会議の開催</b> 2回 働く世代・若い世代の無関心層に対し必要な情報を届ける体制や方法を検討 平成28年9月8日（木） 平成29年2月24日（金）予定  2 普及啓発 保健所：地域・職域連携推進事業との連携し <b>働く世代への啓発</b> を試みる。 市町村：家族の健康のキーパーソンになる <b>母親等</b> に対し既存事業等を活用し自身の <b>歯周病予防啓発</b> をする。  3 <b>研修会の開催</b> 平成29年2月24日（金）予定 対象 成人期歯科保健事業に企画、従事する歯科衛生士等	1 <b>実態把握</b> <b>乳幼児期の食べ方に問題のある児の実態を把握</b> する。 ワーキング会議の開催 3回 乳幼児期の口腔機能の発育を支援する 関係職種（市町保健師、歯科衛生士、栄養士及び保育園保育士）とともに調査票を作成する。  2 <b>研修会の開催</b> 1回 平成29年1月26日（木）予定 乳幼児期の「食べ方」支援に係わる関係職種を対象に乳幼児期の摂食機能の発達等を学び、適切な支援の必要性を理解する。  3 <b>会議の開催</b> 年1回 平成29年3月7日（火）予定 乳幼児期の食べ方支援に係わる関係職種間の連携、次年度の計画を共有する。	1 <b>歯科保健医療に関する実施調査の分析評価</b> 平成27年度に実施した“ <b>障害児歯科口腔保健医療ニーズ調査</b> ”について、保護者に対しての調査結果は、就学前と就学後に分けて各市の課題・問題点が抽出し課題解決に向けて議論を深めた。  2 <b>障害児歯科口腔保健医療関係者連絡会議</b> 2回 平成28年6月30日（木） 平成28年11月25日（金） 歯科医師会、市保健・療育・特別支援教育の主管課、発達支援・相談施設、特別支援学校による会議を開催し調査結果の還元、課題と方向性の共有を行った。  3 <b>障害児歯科口腔保健医療に関わる支援者研修会</b> 3回（エリア毎に各1回） 平成29年2月13日（月）、2月20日（月）、2月23日（木）予定 連絡会議出席機関の担当者を対象に研修会を開催しお互いの役割を理解し、顔の見える関係づくりを構築する機会とする。

Ⅲ 地域歯科保健課題対応事業			
保健所	西尾	新城	豊川
事業名	地域の乳幼児う蝕対策支援事業	在宅要介護者の歯科口腔保健の医療と介護の連携体制の強化	園児期におけるう蝕対策の推進
地域課題	<p>○むし歯緊急事態宣言の発令から10年が経過し、う蝕は減少傾向を示しているが、今だ<b>3歳児のう蝕においては県平均値よりも高い状況にある。</b></p> <p>○管内市町では、健康増進計画に幼児期からのう蝕予防対策の取組みを進めており、市町の施策を支援するため乳幼児期のう蝕要因を探るとともに、<b>歯科保健従事者の資質向上を図る必要がある。</b></p>	<p>○管内の高齢化率は県平均を大幅に上回り県下で<b>最も高齢化が進んでおり、要介護者等も増加している。</b></p> <p>○歯科医師会を窓口にした訪問歯科診療の体制整備や地域包括ケアシステムにおける歯科医療と介護の連携体制は整備されつつあるが、<b>医療や介護の関係者の在宅要介護者への口腔ケアの重要性についての認識は、十分ではなく、取り組みも十分に進められていない。</b></p>	<p>○乳幼児期から学齢期のう蝕経験者率が県内でも高い現状にあり、特に、<b>豊川市内の保育園や学校現場から要治療歯を放置する家庭が多いことが指摘されている。</b></p> <p>○背景の一つとして、<b>園の歯科健診記録と事後措置の様式が統一されていないため、園児個人の歯の健康状態を年次的に把握できず、さらに、歯科受診の動機づけが十分にできていないことが考えられる。</b></p>
事業の目的	市町の歯科保健事業に関わる関係者が、 <b>資質の向上を図り、地域の実情を踏まえう蝕対策の推進を図ることができる。</b>	在宅訪問歯科診療や訪問口腔ケア事業に関わる関係者が、 <b>在宅要介護者の口腔機能の保持・向上の重要性について認識を深め、歯科医療と介護の連携の体制を充実・強化する。</b>	豊川市内の保育園・幼稚園における歯科健診が、 <b>園児と保護者の生活習慣の改善を促す機会となるよう環境整備を行うことにより、園児期のう蝕対策の推進とともに、健康格差の縮小を図る。</b>
目標	<div>1 市町歯科保健事業関係者が、地域のう蝕発生に関する課題について共有することができる。</div> <div>2 市町歯科保健事業関係者が、効果的な歯科保健指導を実施するため、歯科保健指導に活用する媒体づくり等を見直すことができる。</div> <div>3 市町歯科保健事業関係者が、スキルアップを図り、適切な歯科保健指導ができる。</div>	<div>1 医療・介護・歯科医療の在宅要介護者を取り巻く関係者が口腔機能の保持・向上の重要性について認識し、自らその重要性について啓発することができる。</div> <div>2 医療・介護等の関係者が日常的に口腔ケアを実施するまたはケアプランに盛り込み、必要な訪問歯科診療や専門的口腔ケアと連携することができる。</div>	<div>1 関係者が、歯科健診に係る実態を把握できる。</div> <div>2 関係者が、歯科健康診断票及びお知らせ用紙の統一に向けて検討しながら、地域課題を共有できる。</div> <div>3 園職員が、園児個別の歯の健康管理状況を把握し、歯科健診結果を適切に保護者へ知らせることができる。</div> <div>4 園児と保護者が、園の歯科健診をきっかけに、受診行動と生活習慣の見直しができる。</div>
事業内容	<div>1 <b>データ分析検討連絡会</b> 2回 幸田町 平成28年6月27日(月) 西尾市 平成28年6月28日(火) 対象者 母子歯科保健担当者、従事歯科衛生士</div> <div>2 データ分析作業</div> <div>3 <b>歯科保健関係者検討会議</b> 2回 幸田町 平成28年12月7日(水) 西尾市 平成28年12月9日(金) 出席者 学識経験者、歯科医師、従事歯科衛生士 母子歯科保健担当者</div> <div>4 <b>歯科保健関係者研修会</b> 幸田町 平成29年1月19日(木) 予定 西尾市 平成29年2月28日(火) 予定 対象者 母子保健担当者、従事歯科衛生士等</div>	<p>広域であり、医療資源等が限られている新城市作手地区をモデル地区として実施。</p> <div>1 関係機関における<b>連携会議の開催</b> 平成28年8月30日(火) 平成29年2月7日(火) 予定</div> <div>2 介護関係者等を対象とした<b>研修会の開催</b> 平成28年11月10日(木)</div> <div>3 市地域ケア会議等での<b>情報提供、啓発</b> 地域ケア会議：平成29年2月14日(予定)</div>	<div>1 <b>歯科健診の環境に関するアンケート調査実施</b> 管内全域の幼稚園・保育園・こども園で行われている歯科健診及び事後措置について、地域歯科保健業務状況報告と併せて実態把握する。</div> <div>2 <b>関係者連絡会議の開催</b> 管内全域の実態把握の結果から地域課題を共有し、歯科健診及び事後措置の方向性、統一様式案等について意見交換を行う。 (1)課題抽出会議 2回 平成28年9月28日(水)、10月28日(金) (2)代表者会議 1回 平成28年12月13日(火)</div> <div>3 <b>保育園・幼稚園関係者研修会</b>の開催 (豊川市保健センターと共催) 平成29年1月19日(木) 予定 地域課題を共有し、子育て支援現場の取組を見直し環境整備を促す機会とする。</div>



